

震災リゲイン

Press プレス

震災復興支援メディア 全国4万部配布
発行元：一般社団法人 震災リゲイン 発行人：相澤久美 編集人：高木伸哉

編集部：〒106-0044 東京都港区東麻布2-28-6 Tel：03-3584-3430 Fax：03-3560-2047

こんな記事、あります。

次頁から

2面：あなたにもできる復興支援!

3面：チャリティ通販、読んで知る・備える、読者プレゼント

4面：未来の震災に備える情報



メッセージ
message

東日本大震災からの復興に向けて

兵庫県知事 井戸敏三

兵庫県は、県立の舞子高校に防災教育を専門に行う「環境防災科」を2002年に設立。災害発生メカニズムを知る自然科学から、それを受け止める社会のあり方、ボランティア、法律などの科目を教えている。生徒たちは東日本大震災被災地に赴き、復興支援の実習も行う。左写真は被災地での田んぼの草抜き。



防災を学ぶ

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

Tel：078-262-5050(観覧案内) <http://www.dri.ne.jp>

震災の経験と教訓を後世に伝えるため、震災の再現映像の上映や、被災者から提供された資料の展示等を行う。防災について楽しみながら学べるコーナーもあり。

東日本大震災の発災から2年が経過しました。

あらためて、犠牲となられた方々に哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。また、震災に遭われ不自由な暮らしを余儀なくされている被災者の皆様に改めてお見舞い申し上げます。

18年前の阪神・淡路大震災から今日まで、私たちはとまどいながらも、単に震災前の状態に戻すのではなく、私たちが抱えるさまざまな課題に全力で取り組みつつ、未来を創造する創造的復興をめざし努力を積み重ねてきました。

被災地全体としては、人口や観光入込客数、有効求人倍率等の主な経済指標は震災前の水準まで回復しています。しかしながら、閉じこもりがちな被災高齢者に対する生活支援、格差が見られる復興市街地整備事業のスピードアップ、まちのにぎわいの回復など、被災者や被災地の抱える課題は個別・多様化しています。それぞれの状況に配慮したきめ細やかな対応が引き続き求められています。

私たちの復興・復旧は未知への挑戦でした。それだけに、震災の経験と教訓を次なる災害や復興に生かしてもらいたいと願い、活動してきました。とりわけ、東日本大震災では、多くの兵庫県民や団体、企業が自らの経験を伝え、支援してきました。

震災から2年といえば、阪神・淡路大震災では生活復興プログラムが策定され、生活再建への取組が本格化した時期です。しかし、東日本大震災の

被災地では、土地区画整理事業、防災集団移転事業等のハード整備が始まったものの、未だ多くの方々が仮設住宅での生活を余儀なくされています。思い起こせば、私たちも思うように復興が進まず、焦燥感のつる苦しいときもありました。また、独居死やアルコール問題等の生活再建上の課題も浮き彫りになりました。

しかしながら、復興の正念場にある今こそが大切なときです。恒久住宅の確保、健康づくり、高齢者の見守り、しごとづくりなど被災者の個別の事情に応じた、きめ細かい支援が望まれます。兵庫県は、被災された方が一日も早く復興することができるよう、まちづくり、コミュニティの再生、こころのケアなどの支援に取り組むほか、県職員に加え、民間等の実務経験者を任期付職員として被災地へ派遣しています。このような私たちの活動は、東日本大震災の被災地にとって、頑張り続ければ必ず復興できるという何よりの励みになると信じています。

創造的復興をめざした歩みの中で、私たちは、人と人との絆、ともに生きる大切さ、地域コミュニティにおける自助と助け合いが基本であることを学びました。

自然災害はなくすことができません。しかし事前に備えることで被害を最小限にできるはずで。大きな被災を経験した私たちだけに、同じ悲しみや苦しみが繰り返されることがないよう、震災の経験と教訓をもとに、「忘れない」、「伝える」、そして「備える」取り組みを進めていこうではありませんか。

あなたにも
できる
復興支援!

住民主体のまちづくり の輪を広げる

[NPO法人 まち・コミュニケーション]
<http://park15.wakwak.com/~m-comi>
Tel: 078-578-1100



全国から中高生らを受け入れている震災体験学習

阪神淡路大震災で8割の家屋が焼失した神戸市長田区の御蔵(みくら)地区で、復興のまちづくりに努めた内外の支援者の活動から生まれた団体。震災の教訓を伝える「語り部」による体験学習を今も年に20校以上の中高生に向けて開催し、海外からの研修生も受け入れる。1999年に大地震のあった台湾とも交流。震災後の神戸で古民家を移築して集会所とした経験から、台湾への古民家移築も実現し、歴史と人のつながりを重んじる復興の象徴となった。また、2004年に大型台風に見舞われた兵庫県豊岡市では市民農園づくりで地域活性化を支援、東日本大震災では石巻市雄勝町や牡鹿郡女川町で漁業支援などに取り組んでいる。2012年12月にNPO法人化し、住民主体のまちづくりの輪をさらに広げている。

支援金
を送る

ゆうちょ銀行 記号番号:00950-3-42788 口座名:まち・コミュニケーション事務局
※他銀からお振込みの場合 ○九九店 当座 口座番号:0042788
正会員、賛助会員、機関紙「季刊まち・コミ」の購読会員も募集中。

被災経験から生まれた架け橋

[復興支援ネットワーク淡路島]
Tel: 090-3288-9962



交わりが希薄になりがちな仮設住宅で餅つき大会支援

過剰な救援物資が倉庫に溢れ保管に困る。これは阪神淡路大震災の際にも起きたことだった。復興支援ネットワーク淡路島は当時の経験を活かし、そのままでは廃棄処分するしかない物資を宮城県の被災地から引取り、バザーを開催。「余っていた物」は「お金」に姿を換えて再び被災地へ。現地の豆腐屋さんが月に一度仮設住宅に豆腐を届ける資金にするなど、経済再生につな

支援金
を送る

淡路信用金庫 仮屋支店
普通 口座番号:0292679
口座名:復興支援ネットワーク
淡路島 代表 木村幸一

げていく。「こうしてください」となかなか言い出せない。そんな被災者の立場を共有できる、「同じ地域づくりをしている仲間」としての支援。だから一方通行の支援に終わらない。阪神から東北へ、東北から将来へ。被災経験・支援経験から、「災害に際して本当に必要なこと」を蓄積して発信する活動を応援したい。

神戸の「元気村」経験者らが活動

[一般社団法人 オープンジャパン]

<http://openjapan.net> Mail: info@openjapan.net

阪神淡路大震災で長期ボランティアに当たった「神戸元気村」のメンバーらが被災直後の石巻市に集結。「ボランティア支援ベース絆」として物資配給や泥出しなどを始め、1年後に名称をあらため法人化したネットワーク。神戸の経験を活かし、仮設住宅の高齢者約750人に3kgの米を1年間届け続けた「サンライス元気村」などの多彩で丁寧な活動を手掛ける。現在は東北各地で、仮設入居者の足の確保と交流のきっかけとなっている「カーシェアリング

プロジェクト」、牡鹿半島の大原浜に残った2階建ての古民家を地域拠点としてよみがえらせる「古民家再生IBUKIプロジェクト」を継続中。顧問の吉村誠司さんは「津波の被害を受けても残せる歴史や思い出を大切に伝え、観光に生かしながら、地元の雇用とまちの再生につなげたい」とする。

仮設住宅でのカーシェアリングは住民の交流や見守りのきっかけに



支援金
を送る

ゆうちょ銀行 記号番号:02250-5-126661 口座名:一般社団法人 OPEN JAPAN
※他銀からお振込みの場合 二二九店 当座 口座番号:0126661
ボランティアもウェブサイトで随時募集中。

災害に直面した「食物アレルギー患者」たち

[アレルギーの会全国連絡会]

<http://www.allezen.net> Tel: 080-4440-4818



「避難所には食料が積み上げられているのに、食べられないものがない……」。緊急時の非常食の多くは、おかずがないことを前提に味付きのものが多く、食物アレルギー患者には食べられないものが大半を占める。アレルギーの会全国連絡会の運営委員であり、自らも仙台で被災した三田久美さんはショップに泊まり込み、支援拠点の機能を担いながら、食物ア

レルギー患者のための物資搬送に奔走した。「震災翌日にはNHKに行き支援物資がある場所の情報を放送してもらいました。行政や企業と連携できたのも、この連絡会の仲間に阪神淡路大震災などの経験があったから。アレルギー患者は糖尿病や心臓病患者などと同じ被災弱者。今後もアレルギーへの社会の理解を深め、広める活動を続けたい」と語る。

支援金
を送る

ゆうちょ銀行 記号番号:00760-6-46510 口座名:アレルギーの会全国連絡会
※他銀からお振込みの場合 ○七九店 当座 口座番号:0046510

購入で
応援しよう！

— チャリティ通販 —



震災で生まれた新しい味

[女川カレーBOOK(調理用スパイスセット)](宮城県女川町)

震災直後、鎌倉の若者たちが避難所でカレーの炊き出しに駆けつけた。お腹に優しい素材、体が温まるスパイスに「気持ちも体もあつたかくなりました！」と大評判。こうして生まれた被災地の新しい名産品が“女川カレー”として、今、全国へ！

1冊(カレー 4皿分) 683円

ご注文は⇒ [ディル・セ・おながわ](http://onagawacurry.com)

Tel: 0225-24-8747 <http://onagawacurry.com>

カレー誕生
の経緯やレ
シピ付きの
ブックレ
ットタイプ



漁師の工夫の名産品を残したい

[ウニの貝焼き](福島県いわき市)

日持ちしないウニをホッキ貝の貝殻に載せて蒸し焼きにした逸品。生食とは違う何とも言えない香りと甘さが魅力です！ 原発事故の影響で今年の漁も見通しの立たない小名浜産の代わりに、高ランクのロシア産ウニで、伝統の味をこれまで通りお茶の間へ届けます。

1個(40g) 420円

ご注文は⇒ [株式会社 釜庄](http://item.rakuten.co.jp/kamasho/515727)

Tel: 0120-01-3737 (フリーダイヤル)

10:00~12:00 / 13:00~17:00 受付

[http://item.rakuten.co.jp/](http://item.rakuten.co.jp/kamasho/515727)

[kamasho/515727](http://item.rakuten.co.jp/kamasho/515727)

※表示価格はすべて税込です(送料別)。 ※ここに掲載されている飲食品(日本産)はすべて、放射性物質検査の結果が国の定める基準値以下のものです(2013年6月20日)。

読んで知る・備える — 書評ほか —

苦悩のケアを問う名著

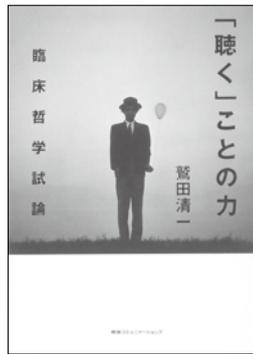
[書籍:「聴く」ことの本質—臨床哲学試論]

鷺田清一著(写真・植田正治)

阪急コミュニケーションズ

2,100円 お買い求めは⇒ お近くの書店で

「私はもうだめなのでは？」という人に、励ますでもなく、諭すでもなく、ただその言葉をひたすら受け止め、傾聴すること。それが何よりも相手に癒しをもたらす力になる。あるいは、じっとその場に寄りそうことが時に人を救う。他者の苦しみを前に私たちができる「ケア」の本質を問う名著。著者はせんだいメディアアテックの新館長。



18年間の足跡を1頁に

[年表:阪神・淡路大震災+クリエイティブ タイムライン マッピング]

阪神・淡路大震災+クリエイティブ タイムライン マッピング プロジェクト制作・発行

この年表を見るには⇒

ウェブサイト版: <http://tm19950117.jp>

印刷版:デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)にて

無料配布中 Tel: 078-325-2235 <http://kiito.jp>

アート、デザイン、建築の分野で行われた、阪神淡路大震災に関する復興支援活動の今日までの足跡を一望できる年表。公開はリーフレット型の印刷版と、現在も更新を続けるウェブサイト版で行われている。ウェブ版では年表上に東日本大震災発生時からの経過日数も表示され、2つの復興支援を重ね見る視点をもたらしてくれる。



読者プレゼント

以下ご記載のうえ、このページ右下に記載の編集部宛(ハガキ/Fax/eメール)にご応募ください。

①希望プレゼント(A~Dのいずれかを記入) ②郵便番号・住所・名前・電話番号・性別・年齢 ③よかった記事のタイトル ④ご感想・ご意見

A 女川カレーBOOK(調理用スパイスセット) 5名

宮城県女川町の新名物をご自宅の食卓で(本紙掲載記事参照)

B LED懐中電灯 20名 (提供:プラス株式会社ジョイントテックスカンパニー)

単三乾電池1本で点灯、軽量・小型・防雨形で携帯にも便利

C 冊子『PRAY+LIFE』(プレイ+ライフ) 5名 (提供:PRAY+LIFE)

福島に生きる/繋がる人々の声を文字に残す活動の冊子版(小紙第3号掲載)

D 阪神・淡路大震災+クリエイティブ タイムライン マッピング 30名

印刷版リーフレット(提供:同プロジェクト 詳細は本紙掲載記事参照)

※2013年8月末日締切。当選発表は発送をもって代えさせていただきます。 ※個人情報は当選者への発送に使用させていただく以外、第三者への提供等一切行いません。

震災リゲインプレスとは

遠くにいてもあなた自身ができる、ちいさな震災復興支援をご紹介するフリーペーパーです。年4回発行。日本全国誰もが未知の震災に「備えて」欲しいという願いも込めた媒体です。震災支援者の活動状況をお伝えするウェブサイト「震災リゲイン」(www.shinsairegain.jp)の姉妹メディアでもあります。

編集後記

東日本大震災をきっかけに生まれた小紙は、今回、改めて阪神淡路大震災の経験から震災について考えました。兵庫県知事に頂いたメッセージに始まり、18年前の苦境を経験した方々に学ぶべきことは多くあります。今後も過去・現在・未来を見据えつつ、皆さんと震災復興・防災を考えていければと思います。(内田伸一)

発行継続のための寄付のお願い

寄付
する

一人ひとりが震災に備え、復興を支え合う。そのための無料の震災専門紙である小紙をご支援下さると幸いです。ご寄付頂いた際は、ぜひ下記編集部へご連絡先もお知らせ下さい。小紙を毎号お届けします。また、差し支えなければ寄付者各位のお名前をウェブサイトでご紹介いたします。

以下いずれかにご入金ください 個人:1口3,000円/年 法人・団体1口30,000円/年から。

[寄付先] ゆうちょ銀行総合口座 記号番号:10000-82078551 口座名:震災リゲイン

ジャパンネット銀行 すすめ支店 普通 口座番号:8283215 口座名:一般社団法人震災リゲイン

ご意見、情報もお待ちしています

一般社団法人 震災リゲイン 震災リゲインプレス編集部 eメール: info@shinsairegain.jp

〒106-0044 東京都港区東麻布 2-28-6 Tel: 03-3584-3430 Fax: 03-3560-2047

参加・協力(五十音順): 相澤久美、岩室晶子、内田伸一、宇野求、加藤久人、川嶋直、小林奈央、菅原さくら、杉山昇太、関口威人、高木伸哉、中尾悠、中川哲雄、中谷正人、中野民夫、長谷寛、水野哲雄、山道雄太、吉田朋史、若松海

つぎの
震災に備えよう
—コラム—

「楽しい」から防災を考える

NPO法人プラス・アーツ代表 永田宏和さんに聞く



「子供のころの防災訓練」というとどんなイメージを思いおこすだろうか？ 地域によって異なると思うが、楽しいというより、真面目に粛々と取り組むものだったような気がする。そんななか、いま「防災」と「楽しい」が一つになった防災訓練が各地で（海外にも！）広まっている。この発端となった楽しい防災ワークショップ「イザ！カエルキャラバン！」の仕掛人がNPO法人プラス・アーツ代表の永田宏和さんだ。

大学の建築学科でまちづくりを専攻し、1993年にゼネコンに入社。2年後に阪神淡路大震災がおこった。会社の同僚たちが被災地に入り支援やリサーチを行う中、永田さんは仕事を続け京都のショッピングセンターを設計していた。「当時はとても歯がゆい思いをしました。被災地の支援もしたいが、仕事もある。そこから徐々に『ハードの限界』を感じはじめました」とその頃を振り返る。2001年に前職を離れ、iop都市文化創造研究所を設立。ブランディングやイベントプロデュースなど、ソフトにかかわる仕事を

はじめた。

阪神淡路大震災から10年経った頃、神戸市から「震災復興した元気な神戸を伝えるイベントを開催したい」と依頼を受けた永田さん。「元気に前向きでありつつも、昔の出来事を忘れてはいけないんじゃないか」。そう考え生まれたのが「楽しく防災を学ぶ」というキーワードだった。

「イザ！カエルキャラバン！」はアーティストの藤浩志さん（現在、プラス・アーツ副代表）とのコラボレーションから生まれたプログラムだ。藤さんによる、おもちゃの物々交換プログラム「かえっこバザール」の枠組みに、独自の防災ワークショップを組み込むことで生まれた。はじめはプラス・アーツが開催支援をするが、その後は日本でも世界各地でも住民や学校の先生たちが中心になって地域の恒例行事として根付き始めている。

「被災地とのかかわりはいまだけではない。10年目にも関わることだってある」。その後も永田さんはイラストレーターとのコラボ防災本『地



「イザ！カエルキャラバン！」では、いらなくなったおもちゃをポイントに交換し、会場の別のおもちゃを入手できる。防災ゲームへの参加でもポイントが貰え、最後は人気おもちゃのオークションが開催される。

震イツモノート』（2007年、木楽舎／小紙前号掲載）や、デザイナーとのコラボ復興支援年表『阪神・淡路大震災＋クリエイティブタイムラインマッピングプロジェクト』（2011年～／本紙3面掲載）など、さまざまなクリエイターたちとの協働で「いまできる」震災支援を続けている。

（文＝山道雄太）

会員になる

参加する

プラス・アーツについて、もっと詳しく知りたい方はウェブサイトをご覧ください。入会方法は電話でもお問い合わせ頂けます。
<http://www.plus-arts.net> Tel: 078-335-1335

市民、NPO、行政、そして社員と創る「企業の使命」とは？

スピードと継続。災害時に「住宅メーカーにできること」をひたむきに

積水ハウスは、3・11の震災発生当日に、震災復興本部を立ち上げた。それは、東北三県に住む45,000もの顧客とグループ従業員約700名、そしてその家族を守りたいという住宅メーカーとしては自然な思いから。「顧客を守るのは当然で、さらに現地社員や協力会社の方々にもまず必要な物資を届ける。そこから、現地スタッフが地域のために動けるようになる」（広報部 楠正吉さん）との発想だ。

同社では、日本のどの地域で震災が発生しても対応できるよう、備蓄する支援物資を即座に被災地に届けるシステムを作り上げていた。震災発生から3時間後には、水や食料などの救援物資を積んだトラックが静岡工場を出発し、24時間後には仙台支店に到着。さらにカセットコンロ、おむつ、バイクなどを含む全支援物資は、8月末までに10トントラック89台分に達した。企業としてお客様とその周囲にと、できる範囲は限られるが、「欲しいものを、欲しい方に、欲しい時に」を合い言葉に届け続けた。

トラック輸送では、大阪のNPOも参加した「相乗りプロジェクト」の一翼も担った。支援が届きにくい避難所、避難弱者の多い避難所などをピン

ポイントに目指し物資を届ける活動で、積水ハウスの手法で配車したトラックに市民や社員からの救援物資、大阪水道局提供のペットボトルなどを相乗り輸送。ボランティアを乗せるバスもこの方式で運行し、支援に向かう有志市民の足を確保した。「NPOや行政とのこうしたコラボは、普段から地元のNPOが主催する勉強会に出席するなどして培ったネットワークあってこそ、できたことだと思います」（楠さん）。

緊急支援が一段落した時点で必要となるのが、仮設住宅の建設。ハウスメーカーとして本業で活躍できる場面だ。慢性的な人手不足の中、全国の支店や協力工事店から応援を仰ぎ、ピーク時には最大で700人/日の工事体制を敷いて対応した。

そして、現在。同社が力を入れている活動のひとつが「ミナDEカオウヤ」プロジェクト。震災により、窮地に立たされている障害者福祉事業所の製品の購入や仕事のアウトソーシングなどで自立を支援する。障害者福祉施設の経済的自立を推進してきた会社とも協働、梅田スカイビル内の空きフロアを提供し、社員有志も協力するなど丁寧なサポートを行っている。また2年続いている「3.11 from KANSAI」に会場用地を提供、社員も積極的

に参加している。

行政や市民、NPOとの協働はCSRの重要なテーマになっており、その融合ぶりに驚かされるが、重要なのはこうした活動の多くが社員発信で行われていること。阪神淡路大震災から多くを学んだ関西の企業ならではの成果といえそうだ。



復旧・復興活動には、全国の支店、協力工事店からのべ20万人が参加。住宅建設もピーク時700人/日、2013年初めでも300人/日体制を維持する。

積水ハウス株式会社

<http://www.sekisuihouse.co.jp>

ミナDEカオウヤ

<http://www.kaouya.jp>

3.11 from KANSAI

<http://www.311-kansai.com>

震災リゲインプレスは以下の協賛により発行しています。



株式会社FREEing
<http://www.freeing.co.jp>



プラス株式会社ジョイントテックスカンパニー
<http://www.jointex.co.jp>



日能研
<http://www.nichinoken.co.jp>